

『Q-Uの活用と個に応じた適切な支援による温かい学級づくり』

あま市立美和小学校

1 目 的

- (1) 児童にとって、温かい学級づくりを進めていくことが学校生活の基盤になると考え、「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」を活用し、学級の実態把握と支援（予防的支援）を必要としている児童の抽出及び対応策の検討を行います。
- (2) アンケート結果の正確な分析と活用方法についての研修を深め、一人ひとりの児童が自分のよさを発揮し、互いのよさを認め合い、共に協力することができる温かい学級づくりを推進していきます。

2 内 容

(1) Q-U 調査

- ・ 児童が生き生きと学校生活を送るためには、学級での居場所を見出せるようにすることが大切であり、そのためには温かい学級づくり、つまり、児童一人ひとりの安心感と満足度の高い学級づくりが必要です。そこで、温かい学級づくりを目指してQ-Uを活用した支援のあり方を研究しました。

(2) Q-U研修

- ・ Q-U調査結果を分析し、担任が学級の状態を的確に把握し、対応策を講じて学級経営に生かすために、職員を対象としたQ-U研修を実施しました。



【Q-Uの結果分析を行う研修会】

3 評 価

- (1) Q-U調査を活用したことで、個々の児童の実態を把握することができました。また、若手教員は指導の指針が得られ、ベテラン教員は自分の児童理解との整合性を確かめながら、今後の指導方法について見直しと改善を行うことができました。
- (2) Q-Uの調査結果を参考にし、低・中・高学年に分かれ、支援の方法についてワークショップ形式で具体的方策について話し合いました。若手の斬新なアイデアやベテランの経験に基づいた指導方法など、さまざまな指導方法の検討と共有化を図ることができました。
- (3) 単なる調査結果の分析のみならず、個人や学級の変容を捉えることができるようになり、指導の成果を確認したり、新たな課題解決に向けた対応策を検討したりすることができました。

4 課 題

Q-Uの調査結果は、あくまでも数値的な結果であり、児童の実態と全てが一致するものではありません。日々変化と成長を続ける児童の実態をつぶさに観察し、客観的データと教師の鋭い観察力を融合させながら、児童一人一人のよさが発揮され、全ての児童が互いに認め支え合える温かい学級づくりを更に図っていく必要があります。

授業力アップ事業（現職教育）

あま市立美和小学校

1 目 的

「授業力」という教師の資質向上は、学校の教育活動充実の根幹に関わるものです。本校でも、若手教師が次々と教壇に立つようになってきています。経験の浅い教師が、基本的な指導技術を身につけるとともに、経験を積んだ教師も、改めて自分の指導方法を振り返り更なる指導力の向上を目指すことで、組織全体の「授業力」を向上させることができます。

来年度からは外国語（英語）の教科化が実施されます。新学習指導要領に沿った適切な指導や評価方法についての研究・研修を通して授業力の向上を図り、児童の学びを成長につなげていくことを目指します。

2 内 容

- (1) 校内研究授業・研究協議会
- (2) 道徳の授業研究・検討会（現職教育研究）
- (3) 外部講師招聘による授業力アップ研修会（外国語）
- (4) 校内伝達講習会



【外国語（英語）の授業力アップ研修会】

3 評 価

- (1) 校内の研究授業では、「何をねらいとして授業を行うのか」という授業者の思いを生かした提案型の授業を行い、成果とともに今後の課題が明確になるように研究授業を行いました。授業後の検討会でも、その点を意識した話し合いを行い授業改善に活かしました。
- (2) 研究3年目となる道徳の現職教育研究では、ねらいを明確にし、自分の考えを視覚化する方法を工夫しながら、他者の考えと比較して自分の考えを再構築させる対話方法について研究を行いました。授業の初めにねらいを提示することにより何を考えるのかを児童に意識させることができ、抽象的な思考を明確に視覚化することにより活発な話し合い活動を促すことができました。また、多様な思考や価値観を通して、自らの考えを再認識したり、新たな考えを再構築したりすることにより、道徳的諸価値の深化を図ることができました。
- (3) 9月3日に、名古屋外国語大学より講師を招聘し、新指導要領の完全実施に向けた外国語の授業づくりについての研修会を開催しました。実際の授業場面を想定した指導方法についてお話しいただき、具体的な教材を使って体験を通して学ぶことができました。児童の知的好奇心をくすぐる教材教具の選び方や、英語を使う必然性のある場面設定など、小学校の外国語教育は中学校の前倒しではなく、小学校ならではの授業実践を行う必要があると感じることができました。
- (4) 様々な研究会や研修会への参加を促し、最新の情報や教育技術を日常の授業へ還元できるよう取り組んでいます。今年度は、筑波大学附属小学校で開催された研修会に参加した若手教員による伝達講習も行いました。学びの本質に立脚した生きた授業づくりへの実践的な指導方法について全職員で共有することができました。

4 課 題

来年度は、学級全体での更なる活発な議論を促し、一人ひとりの思考の変容を捉え成長の過程を把握することができる道徳の授業研究を計画的に実施するとともに、教職員の資質と力量向上に資する授業力アップ研修を更に充実させていく必要があります。

『地域と結びつく美和小の子どもたち』事業① 「地域交流と情報発信」

あま市立美和小学校

1 目 的

本校では、「地域の理解を得て地域に生まれ、地域に愛される学校づくり」が、児童のよりよい教育につながると考えています。そこで、運動会や学習発表会などの行事に、日頃からお世話になっている地域の方々を招待したり、英語活動に地域ボランティアの協力を得たりするなど、地域とのつながりを意識した取組を実践しています。このように、本事業は、地域とのつながりを深め、児童の教育の充実のために行うものです。

2 内 容

- ・ 『保護者・地域の方と心を通わす』
ふれあい活動（全学年）
…… 保護者、地域の方と一緒に楽しむ
- ・ 『地域を感動させる』
運動会・作品展(全学年)… 地域の方々を招待
- ・ 『地域へ飛び出して』
地域奉仕活動（全学年） …… 一斉下校時の地域清掃
- ・ 『学びの成果を地域へ発信する』
生活科発表会（1年） …… 地域の幼稚園児を招待し交流
- ・ 『地域へ感謝の気持ちを伝える』
花のプレゼント（児童会） …… 苗から花を育て、お世話になっている方々へ贈る



【作品展】

3 評 価

- (1) 6月9日の親子ふれあい活動では、地域の方を講師として学校へお招きし、お手玉やこま回しなどの遊びを通じて、児童と保護者との交流を深めていただきました。児童は、自分たちを支えてくださる多くの方の存在を改めて知ることができ、多くの保護者が「親子で楽しい時間を過ごすことができた」とアンケートに答えるなど、児童が保護者や地域の方とふれあう良い機会となりました。
- (2) 9月28日の運動会や11月25日～27日の作品展に、地域の方々を招待しました。多数の方に来校していただき、日々の学校教育の成果をじっくりと参観・鑑賞していただきました。たくさんの賞賛の言葉をいただき『地域を感動させる』行事として成功裏に終えることができました。
- (3) 1月24日に実施した「おもちゃまつり」では、地域の二つの幼稚園を招待しました。1年生の児童が趣向を凝らして作り上げたあげたおもちゃは、どの園児にも大人気で、お店屋さん役の1年生と園児が楽しそうにふれあい、笑顔あふれる交流の時間となりました。実施後に届いた園児からのメッセージには、来年度の小学校入学への期待と、感謝の言葉が綴られていました。

4 課 題

「地域交流と情報発信」の活動は、年間を通して行われます。地域の特性を生かした取組や地域の方々が参加しやすい方法を工夫し、地域との交流を更に深めることができる活動を行っていく必要があります。

『地域と結びつく美和小の子どもたち』事業② 「発見！ワールド」

あま市立美和小学校

1 目 的

- (1) 本校の外国語活動では、国際理解や異文化交流に1年生から6年生までの全学年で幅広い取組を続けています。地域から多数のボランティア講師の方々にも協力をいただき、異文化を理解したり、外国語で交流したりすることを通して国際理解教育を進めます。
- (2) ALT などの外国の方とも直接交流することを通して、コミュニケーションを楽しむとともに、異なる言語や文化を尊重することができるように取り組みます。

2 内 容

- (1) 外国語(英語)に慣れ親しむ(低中学年)
 - ・ 地域のボランティア・アシスタント・ティチャー(VAT)による異文化交流や、英語を用いたゲームを通して国際理解を図りました。
- (2) 外国の遊びや文化にふれる(高学年)
 - ・ ALT に外国の遊びやゲームを教えてもらったり、日本と異なる文化や生活を感じ取らせたりしました。



【VAT による授業】

3 評 価

- (1) 地域のボランティア・アシスタント・ティチャー(VAT)の熱心な指導のもと、英語の歌を歌ったり、ゲームを行ったりしながら子どもたちは楽しく英語を学んでいます。授業内容については、担任が取り上げてほしい内容を VAT の方と事前に相談し準備を行っています。担任と VAT の連携した授業を通して、子どもたちは積極的に英語を使い、積み上げてきた成果を十分に発揮することができました。
- (2) 授業実施にあたっては、担任が ALT と事前に連絡調整を図り、授業内容の確認や役割分担をしっかりと行うことで、子どもたちにコミュニケーションを図ることの楽しさを伝えています。ALT の話す英語が難しくても、何とか理解しようとする児童の姿勢や、身振り手振りで自分の考えを伝えようとする姿に、今までの取組の成果が表れています。

4 課 題

来年度、高学年においては外国語が教科となり、今まで高学年で行っていた外国語活動が中学年で実施されます。小学校の高学年において、外国語に慣れ親しむ目標から、外国語の知識や技能を身に付ける目標となったとき、いかにして子どもたちの興味・関心を維持させながら、目標となる力を身に付けさせていくのか、また、そのための指導や評価の方法はどうあるべきかが重要な課題となってきます。さらには、担任と ALT との役割分担や中学校との連携のあり方などについても検討していく必要があります。

『地域と結びつく美和小の子どもたち』事業③ 「キャリア教育」

あま市立美和小学校

1 目 的

- (1) 本校では、① 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
② 身の周りの仕事や環境への関心・意欲の向上
③ 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
④ 勤労を重んじ、目標に向かって努力する態度の形成
の4点を重点目標としてキャリア教育に取り組んでいます。そして、この目標を達成するために、低・中・高学年の発達段階に合わせて育成すべき能力を設定し、さまざまな取組を行います。
- (2) 子どもたちが将来への夢を育んでいく力を伸ばすには、いろいろな職業や生き方に触れさせることが大切です。そこで、地域学習と関連させて、地域を知り、そこで働く人々から生き方やものづくりにかける情熱を学びます。そして、その活動をきっかけとして、郷土の歴史を大切にし、郷土の産業を愛する心も育んでいきます。

2 内 容（各学年における学習活動）

3年生…社会科―「お店で働く人々」

- ・ 商店街（ナフコ木田店）の見学を通して、お店で働いている人からお話を聞きました。

4年生…社会科―「伝統産業」

- ・ 地域の伝統工芸「七宝焼」の歴史について講師から聞き七宝焼体験を七宝焼アートビレッジで行いました。

5年生…社会科―「日本の産業」

- ・ 地域の農家の方から米作りの苦労について聞いたり、栽培体験活動を行ったりしました。収穫の後、自分たちが育てたお米でおにぎりを作り、お世話になった農家の方に食べていただきました。

6年生…「職業講話」

- ・ 児童の希望や夢につながるように幅広い分野の講師をお招きし、働くことの意義や重要性についての講話を聞きました。



【職業講話】

3 評 価

- (1) 3年生では、お店の方への取材活動を通して、仕事上の工夫や苦労を知ったり、仕事に対する熱意や誇りを感じ取ったりすることで、働くことのすばらしさを学ぶことができました。
- (2) 4年生の七宝焼学習では、あま市の伝統産業である七宝焼を自分たちで作る活動を通して、その美しさや奥深さを肌で感じることができました。また、生まれ育った地域の誇りとして、七宝焼のすばらしさを再認識することができました。
- (3) 5年生の米作り体験では、6月に、自ら汗を流して田植えの体験をしたあと、地域の講師の方から話を聞くことで、仕事をする上での努力や工夫に共感することができました。また、11月の稲刈りで収穫したお米でおはぎを作り、地域の方に食べていただいた感想を通して米作りの楽しさを疑似体験することができました。
- (4) 6年生の職業講話では、今の職業に就くまでの苦労や仕事へのこだわりを通して、人間としての生き方にも触れることができました。

4 課 題

各学年で行う学習活動が一過性の学びとならないように、児童の発達段階に応じた目標設定を明確にし、児童の職業観が系統的に育成されるよう実施していく必要があります。

また、職業講話に関しては、職業観の更なる育成を図るために、児童の実態に即した講師の選定や、事前の打ち合わせを綿密に行う必要があります。

情報モラル事業

あま市立美和小学校

1 目 的

- (1) 子どもたちのスマートフォン等の利用によるネット依存や、SNS の利用にともなう事件や事故の未然防止と対応方法について、子どもたちに正しい知識と認識をもたせます。
- (2) 子どもたちを見守る保護者や教師が連携し、子どもたちが巻き込まれる危険性のある様々な有害情報についての正しい知識と適切な助言や指導ができるようにします。

2 内 容

情報モラル出前授業 … 外部講師を招き、専門的な知識と適切な対応について学びました。

【児童対象】

- ・ ネットにつながる機器
- ・ フィルタリングとは
- ・ ラインのトラブル
- ・ トラブルを防ぐ三原則

【保護者対象】

- ・ 子どものネット利用状況
- ・ 保護者がすべきこと
- ・ トラブル事例とその対策
- ・ 子どもを守る三原則
- ・ 家庭・学校・地域の役割



【高学年対象の情報モラル出前授業】

3 評 価

小学校の高学年においては、スマホ等の情報端末を個人で保有している割合が年々高くなり、家族や知人の端末を利用した経験を含めると、利用経験のある児童がほとんどでした。ティックトックやストーリーなどの言葉もほとんどの児童が知っており、情報化は、確実に小学生にも浸透していることがうかがえました。しかし、情報に関するモラルや取り扱い方法についての知識は乏しく、容易に事件や事故に巻き込まれる可能性が高いことも分かりました。

今回の出前授業では、ルミノソの講師によるプレゼンテーションを利用したたいへん分かりやすい説明のおかげで、子どもたちは、情報の適切な利用方法について学ぶことができました。特に、ラインによるトラブルとその対処方法や、ネットゲーム依存による健康被害について認識を深めることができました。

4 課 題

情報端末の適切な取り扱いについては、使用条件の設定やフィルタリングなどの技術的規制が必要となります。使用にともない起こり得る危険性を大人が十分に認識し、事前の予防と、使用させる際の徹底した指導が必要となります。

また、今後は、SNS による危険について子どもたち自身にも認識させ、技術的な環境整備と合わせて、使用する際の児童の自主規制とモラル向上を図っていく必要があります。